

京都産業大学 40年史

1965 ~ 2005

建学の精神

いかなる国家社会においても、大学は最高の研究・教育の機関である。
大学の使命は、将来の社会を担って立つ人材の育成にある。

その教育の目標は、高い人格をもち、人倫の道をふみはずすことなく、
社会的義務を立派に果たし得る人をつくることであり、しかもその職域
が国内であろうと海外であろうと、その如何を問わず、全世界の人々から
尊敬される日本人として、全人類の平和と幸福のために寄与する精神を
もった人間を育成することである。

このような人間は、日本古来の美しい道徳的伝統を精神的基盤とし、
東西両洋の豊かな文化教養を身につけ、絶えず変動する国内情勢に関し
て十分な知識をもち、その科学的分析によって正しい情勢判断のできる
能力を備え、如何なる時局に当面しても、常に独自の見解を堅持し自己
の信念を貫き得る人間である。

かかる学生の育成が、本学の建学の精神である。

京都産業大学 創設者
初代総長 荒木俊馬

刊行にあたって

敗戦から20年が過ぎ、戦後の経済成長がいよいよ急速の度を増す一方、他方で各地に大学紛争の嵐が吹き荒れ、世情が騒然とした雰囲気醸していた昭和40年、学祖荒木俊馬博士が掲げた「建学の精神」のもと、わが国の将来を担い、世界に雄飛する有為の人材を育成することをめざして、他に類を見ない新しい大学、わが京都産業大学が創立された。

爾来40年の歳月が流れた。その間、教職員はもとより、在学生諸君、そして卒業生各位のなみなみならぬ努力と支援によって、本学はめざましい発展を遂げて今日にいたっている。

われわれはこのことを心から喜び、祝いたいと思う。

創立40周年を記念して刊行される『京都産業大学40年史』を繙いてみると、そこに見出されるのは何よりもまず第一に清新で、若々しい創造の息吹と営みの軌跡である。

われわれは本学の歴史のひと^{こま}と^{こま}と^{こま}のうちに、高邁な理想の呼び掛けに添えて結集した若い力が、文字通り無から何を生み出し、何を創り上げることができたかを読み取ることができるであろう。

しかしながら、40年を^{けみ}聞したとはいえ、本学が依然として発展途上にあることが忘れられてはならない。いま改めて肝に銘ずべきは、来るべき50周年に向けて策定された「グランドデザイン」の実現をめざして果敢に挑戦していくことである。

40年史を上梓するにあたって、われわれはまさにそのことを確認し、決意を新たにするのである。

学校法人 京都産業大学
理事長 廣岡正久

目 次

刊行にあたって 理事長 廣岡 正久

第 篇 インタビューと写真でつづる 40年の歩み

キャンパス全景 8

京都産業大学はいま

1965年 開学	国内外の大きな出来事	~1965	10
1975年 創立10周年	国内外の大きな出来事	1966~1975	11
1985年 創立20周年	国内外の大きな出来事	1976~1985	12
1995年 創立30周年	国内外の大きな出来事	1986~1995	13
2005年 創立40周年	国内外の大きな出来事	1996~2005	14

インタビュー 16

教学の40年	学 長 坂井 東洋男に聴く	16
キャンパスづくりの40年	理 事 西浦 明に聴く	21

写真でみる暦年譜 略年表付 24

1963 ~ 1965	開学 日本最高の理想的大学をめざす	24
1966 ~ 1967	法、経営、外国語の3学部増設	26
1968 ~ 1969	第1期生巣立つ(経済学部、理学部)	28
1970 ~ 1974	荒木総長、ポーランドで記念講演	30
	世界の碩学来学の軌跡	32
1975	驚異の発展 創立10周年	34
1976 ~ 1979	荒木俊馬総長から柏祐賢学長へ	36
1980 ~ 1981	卒業生の心のふるさと 同窓会館完成	38
1982 ~ 1984	中央図書館の敷地確保	40
1985 ~ 1986	教育と研究の充実に自信みなぎる 創立20周年	42
1987 ~ 1990	中央図書館完成 工学部の増設	44
1991 ~ 1994	神山ホール完成	46
1995	新しい時代の息吹 創立30周年	48
1996 ~ 1999	新世紀へ新田政則学長誕生	50
2000 ~ 2001	文化学部の増設 千年紀に飛躍を誓う	52
2002 ~ 2004	大学改革担う坂井東洋男学長就任	54
2005	大学新時代をきりひらく 創立40周年	56

第 篇 荒木俊馬と「建学の心」

第1章	「荒木俊馬研究」と大学史の現在的な意義	60
	荒木の生涯	62
	教学の源流をひもとく	64
	幻のフィルムみつかる	66
第2章	出会いを活かした努力のひと	68
	ふたりの恩師 新城新蔵教授とアインシュタイン博士	69
	ベルリン留学	70
	夜久野隠棲 教育の現場へ	72
第3章	荒木語録	74
	京都産業大学設立趣意書	74
	理想の卒業生像を語る	75
	自然科学者として	76
	若い心との触れ合いを楽しむ	78
	「京の大道を闊歩しよう」	79
	「世界に雄飛を」	80
	「あらゆる事象が教科書である」	81
第4章	荒木の心象風景とその家族	82
	京子夫人の歌日記	82
	長子は名馬術家	85
	アポロの打ち上げをみる	86
	戦争と平和	87
	天性の教育者	88
	卒業アルバムの揮毫 荒木総長の饒の言葉の全記録	89
	著書と履歴	93

第 篇 資 料

京都産業大学の組織 歴代の理事長・学長	98
コンピュータ 情報時代の先駆	101
図書館 知の殿堂	102
国際交流 世界に広がるキャンパス	104
学生寮 第2の教室	106
課外活動 人間力を培う	108
神山祭の全記録	112
すみれ幼稚園 幼児教育の理想像を追う	118
同窓会 卒業生の心のふるさと	120
大学の統計	121
参考文献	122



サギタリウスは射手座。その意味は希望。
 宏大無辺な大宇宙を駆けめぐるギリシャ神。
 新しい時代の青年の将来と世界的雄飛を期待する本学の学章です。



京都産業大学 学旗

京都産業大学学歌

荒木俊馬作詞
 園伊勢展作曲

天地の闊けし時や神々の鎮まりませる
 神山乃よ本山に産び業造り勤はく
 送しきやわれら若人
 次の代にわが日の本を擔いで立たむ

天の向伏す極み岩壁のさへ極み
 有りとも有る全人類の幸福と平和の爲に
 わが命 捧げて惜いぬ
 現身の形造りにわれら勵まむ

銅鐵を身身體と鍊え黄金を精神と磨き
 新珠の真理と実射の剛健の意気高らかに
 天翔る希に抱き
 五大洲への洋に雄飛し行かむ